

令和7年度 第2回豊後大野市「みらい戦略プラン」策定審議会 当日いただいたご意見・ご質問一覧

別紙

No.	該当項目		該当頁	意見	みらい戦略プランへの反映結果	担当課	対応結果
1	基本構想	第2章 まちの将来像	p.12	まちの将来像は、人口減少対策に取り組むうえで少し曖昧な印象を受けた。まちの将来像に込めた想いとして、豊後大野の「大」は大地を活かすこと、「野」は戦略的な野心を持ち、常に前向きに未来に向かって歩みを止めない姿勢を表すほうがより良い印象になると考える。	○	事務局	まちの将来像の「豊後大野」のそれぞれの文字に込めた想いのうち、「大」及び「野」を修正しました。
2	基本構想	第2章 まちの将来像	p.12	まちの将来像の「！」は、どのような意図で設定したか確認したい。「豊」「後」「大」「野」の4つのキーワードで構成するほうが、市民目線からわかりやすく、説明もしやすい。	○	事務局	(※同上)
3	基本戦略	第1章 基本目標 基本目標全体	p.18～19	基本目標に掲げる数値目標を達成することで、基本目標が達成できたと判断してよいか確認したい。まちの将来像の達成度をどのように測るかについて、指標の工夫が必要であると考え。	○	事務局	基本方針ごとのKPIも含めて数値目標を検討・最終化しました。
4	基本戦略	第1章 基本目標 基本目標1	p.18	また、基本目標1の数値目標である「有効求人倍率」は、すでに高い数値で推移しており、現状のままでよいか検討が必要である。働いている人が多いほど「豊かなくらしと仕事を創る」が評価される場合、就業率などの指標を設定したほうがよいと考える。	○	商工観光課	意見を踏まえ、基本目標1の数値目標のうち「有効求人倍率」を「立地企業数(新規・増設)」に変更しました。
5	基本戦略	第1章 基本目標 基本目標1	p.18	基本目標1の数値目標である「有効求人倍率」は、どこの事業者も求人を出しているが、事業者が求める仕事と市民が求めている仕事との間にミスマッチが生じている。「しごとを創る」という観点では、事業創出数などを指標に設定することも考えられる。	○	商工観光課	(※同上)
6	基本戦略	第1章 基本目標 基本目標1	p.21	事業創出も大切だが、現状ある事業を活用する視点も大切である。高齢化の進行により、後継者がいない事業者が増えている。事業承継の観点から数値化できる指標があれば検討してほしい。	○	商工観光課	基本方針1-1 具体的な取組の方向性1-1-3において「事業承継」を追記しました。
7	基本戦略	第1章 基本目標 基本目標2	p.18	また、基本目標2は、豊後大野市に産婦人科がないなどの課題もあるため、妊娠に必要な施設の数など、目で見てわかる数値を指標として設定することも考えられる。	—	事務局	基本目標2のうち「出会いから子育てまで切れ目なく支える」の観点からは、「豊後大野市は結婚、妊娠、子ども・子育てに温かいまちだと思える市民の割合」を設定しています。 また、「まちの未来を担うひとを育てる」「全てのひとの可能性を輝かせる」の観点から「三重総合高校生の市内就職率」と設定します。
8	基本戦略	第1章 基本目標 基本目標3	p.19	さらに、基本目標3の数値目標である「ふるさと納税者数」は、外部の人からの評価に関する指標であるため、関係人口やUターン者数などを設定し、「豊かな自然・地域を未来へつなげる」を評価するほうがよいと考える。	○	まちづくり推進課	「ふるさと納税者数」は、幅広く豊後大野市に関わる人の数を把握することが可能であるため、引き続き「ふるさと納税者数」を基本目標3の数値目標とします。
9	基本戦略	第1章 基本目標 基本目標3	p.19	基本目標3の数値目標である「ふるさと納税者数」の現状値を確認したい。現状から令和11年度に向けてどの程度伸ばしていくか確認したい。	○	事務局	「ふるさと納税者数」の現状値と目標値を記入しました。

令和7年度 第2回豊後大野市「みらい戦略プラン」策定審議会 当日いただいたご意見・ご質問一覧

別紙

No.	該当項目		該当頁	意見	みらい戦略プランへの反映結果	担当課	対応結果
10	基本戦略	第1章 基本目標 基本目標4	p.19	最後に、基本目標4はAIやデジタルといった手段が目的になっているため違和感がある。	○	事務局	基本目標4を「最新技術でまちを変える」に修正しました。
11	基本戦略	第2章 基本方針	p.20	基本方針1-2「くらしとしごとの希望をかなえる」は、「くらし」と「しごと」を分けたほうがよい。仕事づくりを最優先に位置づけるべきである。「しごと」に関する内容と、福祉や健康などの「くらし」に関する内容が混在している。新たな施策や対策は、意欲的に取り組む人たちの背中を押すような戦略的プランにしてほしい。	—	事務局	「しごと」と「くらし」は密接に関わることから、項目を分けることはできませんが、仕事づくりは重要であるため、基本方針1-1は、仕事づくりに重点を置いた基本方針とすることとします。 また、「くらし」に関する内容として、具体的な取組方向性1-1-5 地域交通インフラ及び1-1-6 既存インフラの有効活用を掲げます。その他の「くらし」に関わる施策についても、関連する個別計画で具体化し取組を進めます。
12	基本戦略	第2章 基本方針 基本方針1-1	p.21	また、基本方針1-2のKPIである「立地候補企業との面談数」は活動指標であるため、戦略的プランとして成果指標につながる指標を設定したほうがよいと考える。	○	商工観光課	現時点で、「立地候補企業との面談数」の他に適切なKPIの候補がなく、「立地候補企業との面談数」をKPIとして設定した上で、関連する取組を推進します。
13	基本戦略	第2章 基本方針 基本方針1-2	p.20-24	基本目標1で市民が求めているのは働く場所であるため、基本方針1-1と1-2は順序を入れ替えたほうがよいと考える。農業は、豊後大野市の基幹産業であるが、素案の内容は従来と変わっていない。まずは仕事の確保を最優先に掲げるべきであると考え。	○	1-1 商工観光課 1-2 農業振興課	仕事づくりに重点を置くため、基本方針1-1及び1-2の順番を入れ替えて記載しました。
14	基本戦略	第2章 基本方針 基本方針2-2	p.27	高校生・学生アンケートのうち定住意向に関する結果は、女性が「10年後も住みたい」と回答した割合が少ない。人口減少対策の取組として、女性が「豊後大野市に住み続けたい」「Uターンで戻ってきたい」と魅力を感じられる計画にしてほしい。	○	学校教育課	基本方針2-2において若い世代の定住意向に低い傾向がある旨及びまちの魅力に触れ、まちへの誇りや愛着を持つことができるような取組を進める旨を追記しました。
15	基本戦略	第2章 基本方針 基本方針2-2	p.27	基本方針2-2のKPIである「将来の夢や目標を持っている児童・生徒の割合」は一般的である。豊後大野市ならではの特色を反映した指標として、「地元に残りたいと考える児童・生徒の割合」や「地元定着率」などを設定したほうがよいと考える。	○	学校教育課	基本方針2-2のKPIを「豊後大野市が「好き」と答えたこどもの割合」に変更しました。
16	基本戦略	第2章 基本方針 基本方針3-1	p.27	基本方針3-1のKPIは、子どもたちに未来をつなげるため、学校での地域教育や食育などの「イベントの実施件数」を設定したほうがよいと考える。	○	学校教育課	基本方針2-2にまちの魅力に触れ、まちへの誇りや郷土に愛着を持てるような取組を進める旨を追記しました。
17	基本戦略	第2章 基本方針 基本方針3-1	p.27	また、DXと関連づけて、子どもたちが地域の魅力を発見するプログラムの実施数なども一案である。SNSは情報が埋もれやすいため、テレビなど他のメディアを活用する方が効果的であると考え。	○	学校教育課	(※同上)

令和7年度 第2回豊後大野市「みらい戦略プラン」策定審議会 当日いただいたご意見・ご質問一覧

別紙

No.	該当項目		該当頁	意見	みらい戦略プランへの反映結果	担当課	対応結果
18	基本戦略	第2章 基本方針 基本方針3-2	p.31	基本方針3-2、3-3、3-4の観光分野は、関連計画に観光分野が含まれていない。昨年の議会で観光振興ビジョンはみらい戦略プランで記載することとなったと理解しているが、詳細のビジョンが記載されていないため、観光振興ビジョンの策定をするのがよいと考える。	○	商工観光課	基本方針3-2で観光振興ビジョンを継承・発展することを明記した上で、観光振興ビジョンの内容を踏まえて修正しました。
19	基本戦略	第2章 基本方針 基本方針3-2	p.31	みらい戦略プランは、人口減少対策を目的として策定している。総合計画のため観光分野の記載はあるが、別途観光振興ビジョンを策定するか、みらい戦略プランに盛り込むか検討をお願いする。	○	商工観光課	(※同上)
20	基本戦略	第2章 基本方針 基本方針3-2	p.31	大まかな内容を示す程度でよいと考える。資料5の6ページのとおり個別計画を策定すべきである。	○	商工観光課	(※同上)
21	基本戦略	第2章 基本方針 基本方針3-3	p.33	基本方針3-3のKPIは、「SNSフォロー数」などを指標として設定すべきである。	○	総務課	基本方針3-3のKPIを「豊後大野市公式LINE友達登録者数」に変更しました。
22	基本戦略	第2章 基本方針 基本方針3-3	p.33	基本方針3-3は、魅力を伝えるという観点から、小中学校の児童生徒によるまちの魅力発見をテーマにしたプレゼンテーションコンテスト（昨年度10件、本年度20件程度）を実施している。郷土学の成果をまとめ、1人1台配布しているタブレット端末を活用して発表・発信している。未来につなげる取組として、子どもたちの主体的な取組を指標で示すのがよい。	—	学校教育課	郷土学、ジオパークなど多様な体験や学習機会の提供は、P27の「2-2-5 多様な体験機会や学習機会の提供」で掲げているため、関連する取組を進めます。
23	基本戦略	第2章 基本方針 基本方針4-1	p.35	また、基本目標4は、市役所内の業務のDXだけでなく、農業や福祉、医療などの分野においてもDXにより便利になったり、働きやすくなることを目指すべきだと考える。	○	総務課	基本方針4-1で市役所内のDXだけでなく、市内に幅広く波及させていく旨を記載しました。